県北家畜衛生通信 第74号

令和8年10月

いいもの、わたしの、てのひらで。

岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目 次

韓国で口蹄疫発生継続中！ ・・・ 1
高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)対策について ・・・ 2
豚熱ワクチンの適切な接種について ・・・ 3
小型ピロプラズマ病の県北地域での発生と対策について ・・・ 4
「地域における家畜衛生思想の普及啓発に係る研修会」が開催されました ・・・ 5

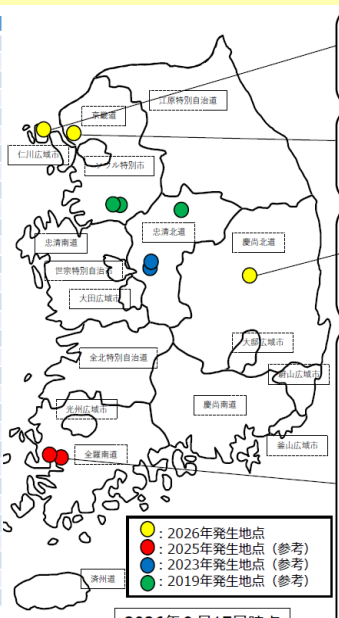
韓 国 で 口 蹄 疫 発 生 継 続 中 ！

口蹄疫は、2010年に宮崎県での発生以降、16年間発生していませんが、韓国では2025年3月以降、豚を含む31件の発生が報告され、直近では、2026年9月16日に発生しました。我が国へ侵入するリスクが極めて高い状況です。以下の症状を見つけたら速やかに通報願います。

韓国における口蹄疫の発生報告状況 （2025年3月以降）

	発生日	場所		動物種	飼養頭数
1	'25/3/13	全南	靈岩郡	牛	184
2	'25/3/14	全南	靈岩郡	牛	15
3*	'25/3/14	全南	靈岩郡	牛	471
4	'25/3/14	全南	靈岩郡	牛	31
5	'25/3/15	全南	務安郡	牛	88
6	'25/3/17	全南	靈岩郡	牛	365
7	'25/3/17	全南	靈岩郡	牛	25
8	'25/3/17	全南	靈岩郡	牛	100
9	'25/3/18	全南	靈岩郡	牛	49
10	'25/3/18	全南	靈岩郡	牛	25
11	'25/3/19	全南	靈岩郡	牛	125
12	'25/3/19	全南	靈岩郡	牛	835
13	'25/3/20	全南	靈岩郡	牛	43
14	'25/3/23	全南	靈岩郡	牛	31
15	'25/4/10	全南	務安郡	豚	5,223
16	'25/4/10	全南	務安郡	豚	1,736
17	'25/4/12	全南	務安郡	豚	1,951
18	'25/4/12	全南	務安郡	豚	1,931
19	'25/4/13	全南	務安郡	豚	3,216
20	'26/1/30	仁川	江華郡	牛	246
21	'26/2/20	京畿	高陽市	牛	130
22	'26/2/28	京畿	高陽市	牛	168
23	'26/7/3	慶北	醴泉郡	豚	5,500
24	'26/7/3	慶北	醴泉郡	牛	186
25	'26/7/3	慶北	醴泉郡	牛	81
26	'26/7/3	慶北	醴泉郡	牛	130
27	'26/7/3	慶北	醴泉郡	牛	39
28	'26/7/3	慶北	醴泉郡	牛	72
29	'26/9/2※	慶北	醴泉郡	牛	46
30	'26/9/2※	慶北	醴泉郡	牛	86
31	'26/9/16※	仁川	江華郡	牛	126

出典：韓国農林畜産食品部、WOAH
注：日付はWOAH報告の発生日又は韓国当局発表の発生日（検体採取日）（※）
頭数は当該農場で飼養されている感受性動物数
*関連農場２農場（いずれも検査陽性）あり。



2026年９月17日時点
農林水産省動物衛生課

仁川広域市（2件）
2026年１月30日
江華郡　牛：1件（O型）
2026年9月16日
江華郡　牛：1件（血清型確認中）

京畿道（２件）
2026年２月20日
高陽市　牛：1件（O型）
2026年２月28日
高陽市　牛：1件（O型）

慶尚北道（８件）
2026年7月３日
醴泉郡　豚：1件（O型）
牛：5件（O型）
2026年9月2日※
醴泉郡　牛：2件（O型）

全羅南道（19件）
2025年3月13日（確定日は14日）
靈岩郡　牛：1件（O型）
2025年3月14日（確定日は15日）
靈岩郡　牛：3件（O型）
2025年3月15日（確定日は16日）
務安郡　牛：1件（O型）
2025年3月17日
靈岩郡　牛：3件（O型）
2025年3月18日
靈岩郡　牛：2件（O型）
2025年3月19日
靈岩郡　牛：2件（O型）
2025年3月20日
靈岩郡　牛：1件（O型）
2025年3月23日
靈岩郡　牛：1件（O型）
2025年４月10日
務安郡　豚：2件（O型）
2025年４月12日
務安郡　豚：2件（O型）
2025年４月13日
務安郡　豚：1件（O型）

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に泡状のよだれを流したり、口、ひづめ、乳房に水疱（水ぶくれ）ができるのが特徴です。

～牛の症状～

写真：宮崎県提供



＜A型口蹄疫ウイルスの感染実験の結果＞

写真：動物衛生研究部門提供





毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに獣医師や最寄りの家畜保健衛生所に連絡しましょう。

牛では、１頭のみに着目せず、泡状のよだれを多く流している個体が多い、上記の症状が急速に拡がるなど、群としての異状の有無を確認することが重要です。

高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)対策について

今年も渡り鳥の飛来シーズンとなり、HPAIウイルスの侵入リスクが高い時期に入ります。侵入防止対策のポイント３つを以下にまとめましたので、今一度確認のうえ、徹底をお願いします。また、当所が農場巡回を行ってみてのポイントも記載しましたので、参考にしてください。

①　衛生管理区域に病原体を持ち込まない！



・出入り時の手指・車両の洗浄消毒
・専用の衣服や靴の着用

【巡回結果】**死鳥置き場**が区域外にある農場が多く、**行き来の際に本病が侵入するリスク**があります！
区域外への行き来の際は**着替え・消毒の徹底**をお願いします！

②　家きん舎に病原体を持ち込まない！



・家きん舎ごとに手指の洗浄消毒、専用靴の着用

【巡回結果】鶏舎入口に外用靴・内用靴それぞれで**専用置き場を設け**、靴を介した交差汚染防止が多くの農場でできていました。引き続き徹底を！



ちなみに…
鶏１羽の感染には、**３万個以上**のウイルス量が必要と言われています。ゼロにはできなくても、**ウイルス量を減らすことで発症予防に**！

③　野生動物を近づけない！侵入させない！

・防鳥ネットは**堆肥舎・死鳥置き場**にも設置
・ネットや壁、集卵ベルトの破損はすぐ補修
・ネズミや害虫の定期的駆除

集卵ベルトや堆肥舎も対策を





【巡回結果】**ロケット花火、レーザー等**に取組む農場もありました。動物を寄せ付けない対策として、**周辺の草刈り**も有効です。

HPAIウイルスは**鶏の体内で急激に増殖し**感染を拡げます。
渡り鳥の飛来シーズンとなりましたので、家きんに異常がみられた場合、**いつもの変化と思わずに速やかに通報**をお願いします。

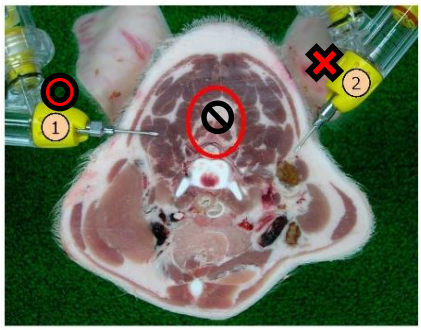
豚熱ワクチンの適切な接種について

令和８年５月の家畜伝染病予防法及び豚熱防疫指針の改正に伴い、選択的殺処分が導入されました。選択的殺処分は、豚熱ワクチン接種により免疫が十分に付与されていることを前提として、免疫のある豚を殺処分せずに飼養継続できるものです。

改めて適切なワクチン接種について確認し、十分な抗体を付与するよう努めましょう。

【接種時のポイント】

- 使用する器具は消毒できていますか？
  （一般的には沸騰後10分以上の煮沸消毒、取扱説明書に従うこと）
- 適切なサイズと長さの針を使っていますか？
- 接種部位は適切ですか？（右図）
  （子豚等：耳の付け根、種豚等：左右腰部）
- 保定はしっかりできていますか？
- 必要な接種量を確実に体内に注入できていますか？（特に右図のような連続注射器）
- 母豚等は1頭ごと、子豚は1豚房ごとに針を交換していますか？





【ワクチン管理のポイント】

- ワクチン接種計画と管理獣医師の指示に従い、適切な数量を準備しましょう。
- 使用期限が過ぎないよう在庫管理しましょう。
- 溶解後、速やかに使用します。前日に溶解して保存しておくのはNGです。
- 接種後は、使用済ワクチンの本数と接種頭数が大きくずれていないか確認しましょう。





※生成AIを用いて作成

小型ピロプラズマ病の県北地域での発生と対策について

小型ピロプラズマ病とは、ピロプラズマ（以下「ピロ」）がダニによって媒介され、牛の赤血球内に寄生し、貧血や発熱を起こす病気です。

令和8年7月、管内の公共放牧場において初放牧のホルスタイン種4頭で本病が発生しました。6月中～下旬に発熱、貧血、黄疸症状を呈し、うち1頭が流産しました。4頭に共通して再生性貧血と小型ピロプラズマ原虫（写真矢印）が認められました。

本病は、ホルスタイン種と日本短角種で発症しやすく、初放牧牛では特に注意が必要です。

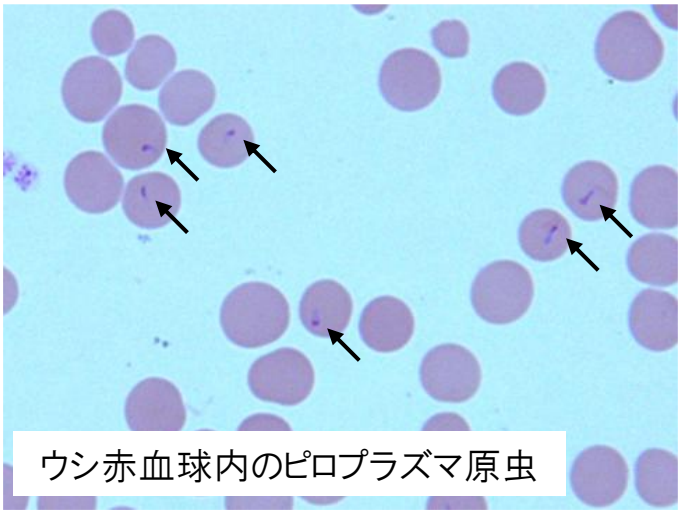
ピロに感染すると貧血になり、流産・死産や育成牛では増体率の低下、発情率の低下、受胎率の低下などを起こすため、経済的損失は大きいです。

ダニは冬期には吸血しませんが、成ダニとして牛やシカにしがみついて越冬するため、ダニが付着したシカなどの野生動物の侵入により放牧場内に持ち込まれます。

発症した場合には抗原虫剤（主成分：ジミナゼンジアセツラート）による治療がありますが、妊娠後期には使用できないため、輸血や対症療法による治療となります。

予防による対策ピロ対策は、フルメトリン製剤の定期的な散布によるダニ駆除が基本となります。初放牧の牛には、春先から数か月間は月2回、確実に散布することが推奨されます。雨の日は薬剤が流され効果を発揮できないため散布を避け、牛の背中に万遍なく散布することも大切です。

公共放牧場だけでなく、自家放牧地に放牧する場合も同様の対策を行いましょう。また、目の周辺および陰部付近にダニの付着がないか、日常的な観察を強化しましょう。



ウシ赤血球内のピロプラズマ原虫



ダニ駆除剤の散布

「地域における家畜衛生思想の普及啓発に係る研修会」が開催されました



9月14日、二戸地区合同庁舎大会議室において、岩手県北家畜衛生協議会主催、岩手県獣医師会二戸・久慈支会共催により「地域における家畜衛生思想の普及啓発に係る研修会」が開催され、関係団体から24名が参加しました。

研修では、ゾエティス・ジャパン㈱の佐々木家治氏が「今一度整理する牛呼吸器病のワクチンと抗菌剤の使い方」と題して講演しました。鼻腔内ワクチン「TSV3」による粘膜免疫の付与が、牛伝染性鼻気管炎（IBR）、牛RSウイルス病（RS）、牛パラインフルエンザ（PI3）の呼吸器病予防に有効であり、出生時や導入時に活用することで発病率の低減が期待できることが紹介されました。

続いて、県北家畜保健衛生所の熊谷芳浩氏から「県内で特に留意すべき牛の疾病と予防について」と題して、ヨーネ病、牛ウイルス性下痢（BVD）、牛伝染性リンパ腫（BL）、アカバネ病、サルモネラ症について、予防や早期発見のポイント、発生時の対応や支援制度について解説がありました。

特にBVDについては、持続感染牛の移動により預託施設において被害が拡大した事例が紹介され、ワクチン接種や異常産の早期検査の重要性が強調されました。

当協議会では年間約1,000頭にTSV3が活用されています。今回の研修を通じて、粘膜免疫の付与が呼吸器病予防対策に有効であることが再認識されたことから、今後は注射型ワクチンとの適切な組み合わせによる総合的な予防対策のさらなる普及を図り、地域における牛の呼吸器病発生低減に貢献したいと考えています。



研修会



ゾエティス・ジャパン㈱佐々木氏